

北条砂丘ぶどう産地復興に向けての取り組み

東伯農業改良普及所

＜活動事例の要旨＞

北条ぶどう生産部では栽培面積や販売額の減少が続いており、栽培に欠かせないハウス施設は耐用年数を過ぎて老朽化が進んでいる。このため、生産者、関係機関で構成する「北条ぶどうを考える会」（以下、「考える会」）を作り、産地の課題の共有と解決の方向性の検討を行った。

1 普及活動の課題・目標

(1) 背景

北条ぶどう生産部の栽培面積は平成元年には111haであったが、生産者の高齢化、雪害、施設の老朽化などで減少が続いている。平成29年2月の大雪でも約3haのハウスが倒壊し、27haへと産地が縮小し、産地の意欲低下が懸念されていた。

(2) 課題・目標

生産部の課題解決活動を促進するため、「考える会」で課題を共有し、解決の方向性を示すとともに必要な対策の事業化を目標に活動を行った。

2 普及活動の内容

産地の課題解決のための方向性を生産者とともにみつけるため、普及所の呼びかけで生産者、関係機関で構成する「考える会」を作り、果樹班で検討を行いながら活動を行った。

(1) 産地の現状把握と課題整理

ア 生産部役員や生産者の担い手、女性から現状や産地への思いなどの聞き取りを行い、目標や課題を整理した。

イ 後継者の有無やハウスの現状などを把握するため、生産部員を対象にアンケート調査を行った（回答者数85名、回収率77%）。

表1 ハウス経過年数

31年以上	17.7%
21～30年	48.5%
11～20年	30.8%
10年以内	3.1%

※20年以上前に建てられたハウスが3分の2

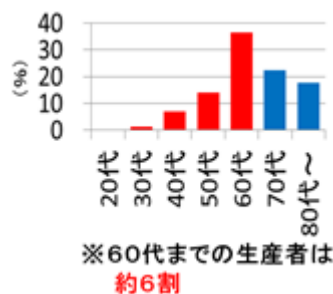


表2 後継者の有無

あり	14.1%
未定	14.1%
なし	64.7%
無記入	7.1%

※後継者が「あり」又は「未定」の人は約3割

図1 生産部年齢構成

(2) 「考える会」で検討

7月から産地の課題を共有し、解決の方向性について生産者、関係機関で話し合いを行った(表3)。

(3) ハウスの現状調査

ハウスの補強技術の検討を進めるため、構造や老朽化状況、生産者が行っている補強対策などの現状調査を行った。

表3 「考える会」の検討内容

課題	主な解決の方向性
➤ハウスの老朽化対策	補強技術を開発し、普及する ・専門家と連携し、補強技術を開発 ・補強方法の実証展示、研修会を開催
➤後継者の育成確保	就農希望者(親元就農、外部からの就農)の受け入れ体制をつくる ・受け入れルールの作成 ・生産部で空き農地(ハウス+樹)の情報を把握 ・就農後の勉強会などのフォロー体制の構築
➤所得向上	高単価販売、ブランド力の強化、品種構成の検討 ・運物率アップなどの販売方法の見直し ・イベント開催やPRの企画 ・シャインマスカットの推進計画の作成

3 普及活動の成果

(1) 「考える会」で検討した解決の方向性を生産部総会で提案し、生産部への意識づけができた(表4)。

ア 平成30年度は生産部が中心となって課題の解決策を進めることとした。

イ 実践に移す具体的な行動計画(地域プラン)を作るようになった。

(2) ハウスの老朽化対策に補強技術の開発

・実証事業を予算要望し、事業化した。

ア 事業内容

(ア) 専門機関と協力して補強技術を開発

(イ) 補強方法の実証展示と研修会を開催

表4 「考える会」まとめた内容

第1回	検討課題の整理、意見交換
第2回	ハウスの老朽化について意見交換
第3、4回	アンケート結果 後継者育成・確保についてグループ検討 ①産地をどう引き継ぐか ②後継者の育成方法
第5、6回	所得向上についてグループ検討・意見交換 ①販売方法の工夫 ②ブランド化の推進 ③10年後の品種構成
第7回	全体まとめ

4 今後の普及活動に向けて

(1) 産地の行動計画の作成

産地の維持・発展をめざすために、生産部が中心になって作成する具体的な行動計画(地域プラン)を関係機関が課題ごとに作成の支援を行う(図2)。

ア 後継者の育成確保対策(北栄町)

イ 所得向上対策(JA)

ウ ハウスの補強対策(普及所)

(2) ハウスの補強技術開発及び実証展示

ハウスの長寿命化に向けた補強技術を

専門家と連携して開発し、現地実証ほの設置と研修会を開催する。

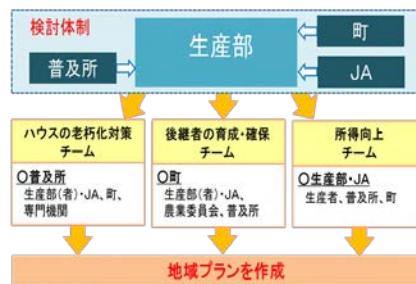


図2 平成30年の進め方

(執筆者: 石河 利彦)